

入選

「おじいちゃんありがとう」

福岡県 篠栗町立篠栗小学校二年 さとう 元春

ぼくたち三きょう弟とおじいちゃん、いつもいろんなところにりょ行に行きます。ぼくのおじいちゃんは、七十七さいです。とっても、元気です。

春休みには、長さきのハウステンボスに行って、この夏休みは、かごしまけんのいぶすきにつれて行ってくれました。毎年、ぼくたち四人だけでりょ行に行くので、おかあさんが、

「なかよしだね。まるで、三じゅうしに一人ふえて、四じゅうしみたいだね。」  
と言ってわらっていました。

でも、おかあさんからそんなふうに言われた時、ほんとうにそうだなあと思いました。なぜかと言うと、いつも男四人で、りょ行がぼっけんのようだからです。

ぼくが、ぼっしをわすれた時のことです。ぼくたちが、かごしまの空こうについて、リムジンバスでいぶすきにむかいました。そのバスの中に、ぼくのおじいちゃんをわすれてしまいました。ぼくは、ホテルのへやの中でぼっしがないことに気づきました。ぼくは、いっしょうけんめいに考えました。どこでわすれたのか、ひこうきの中か、バスの中か、それともおとしたのかなと考えました。

おじいちゃん、おにいちゃんたちが、バス会しゃや、空こうにでんわをしてさがしてくれました。ぼっしは、バスの中になりました。

ぼくたちは、つぎの日タクシーで、とおまわりをしてぼっしをとりに行きました。ぼくは、おこられるかなと思ったけどおじいちゃん、おにいちゃんたちから

「よかった。よかった。」

と言ってよろこんでくれました。

「ばん上のおにいちゃんが、

「けいかくしていないところに行くのも、ぼっけんのようやね。」と言ってたからです。

でも、このぼっけんりょ行もおじいちゃんがつれて行ってくれないと、いろんなぼっけんはできないと思います。

おじいちゃんには、いつまでも元気でいてもらいたいです。これから、ぼくたち、

「四じゅうし。」

でなかよくぼっけんりょ行をしたいと思います。

おじいちゃん、いつも楽しいぼっけんありがとう。